

る。

おもな特長

- (1) 超高感度の新電子管〈ニュービスタ〉つきなので放送局から離れた所でも雑音のない鮮やかな画像が楽しめる。
 - (2) 〈電子アイ〉つきですので部屋の明るさに応じて画面の明るさとコントラストを自動的に調節して最もみやすい画像を常に保つ。
 - (3) 強力大形四角ダブルコーン2スピーカーにより豊かな〈シンフォニックトーン〉が両側から画面を包むように流れる。
 - (4) 従来のものに比べ奥行が3割も短い、超薄形のため場所をとらない。
 - (5) 日立独自の〈明視スクリーン〉つきのため
 - ① コントラストの効いた深味のある画像となる。
 - ② 反射光を吸収する。
 - ③ 電波の弱い所でおこりがちな画面のチラツキを日立たなくする。
 など目のつかれないみやすい画像をつくる。
 - (6) 日立だけの三つの特長〈ハイブリット〉〈密閉形高圧部〉〈ひずみのない画像〉で性能が均一で安定である。
 - (7) UHF コンバータ内蔵可能の設計である。
 - (8) 便利なシーツースイッチつきである。
 - (9) トーンコントロールつきである。
 - (10) プレイヤー端子、録音端子つきである。
 - (11) イヤホン、脚つきである。
 - (12) 日立独自のドア式メンテナンスのためサービスが容易である。
- 現金正価 58,000円
月賦正価 61,200円 (12回払い)

12形日立テレビ“キャリー” TWX-760 R 発売

“12形は日立”の定評をうけている、性能的にもデザイン的にも強力な機種 TWX-760 のキャビネット色変わり3色をそろえた TWX-760 R を発売した。

おもな特長

- (1) 圧倒的な人気を得ている TWX-760 の性能、デザインをそっくり残した。つまり性能は16形の内容をそのまま使っており、デザインは日本代表としてパリのルーブル宮殿に出品して好評だったものである。キャビネットの色は、ブルー、レッド、シルバーの3種を発売したので、お好みの色を自由に選べる。
- (2) 一人で見るときも、ご家庭が3、4人で見るときもどちらの場合にも手頃で持ち運びや移動も便利、付属のロッドアンテナで美しい画像が得られるという、手軽で実用的な点が現代人の感覚にぴったり合っている。
- (3) 日立独自の〈HHS〉〈明視スクリーン〉。三つの技術〈ハイブリット〉〈密閉形高圧回路〉〈ひずみのない画像〉などすべて完備しており、みやすい美しい画像をいつも変らぬ安定性で楽しめる。
- (4) 10cm 丸形スピーカーによる自然の音〈シンフォニックトーン〉である。
- (5) キャビネットにはコードを巻きつけておけるコードハンガーがついているので持ち運びの時にじゃまにならない。
- (6) ロッドアンテナは水平の位置まで傾斜し、360度回転しますのでどの局の電波も正確にとらえることができる。
- (7) イヤホンつき。



第41図 12形日立テレビ“キャリー” TWX-760 R



第42図 オートプレーヤー・FMつき日立ステレオ“シンフォニカ410”

現金正価 44,500円
月賦正価 47,700円 (12回払い)

オートプレーヤー・FMつき日立ステレオ “シンフォニカ410”発売

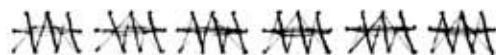
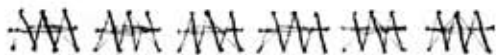
本格的なFM時代にマッチしたステレオ、シンフォニカ410を発売した。このシンフォニカ410は、四つの機能を自動化したオートプレーヤーと、FMのステレオ放送も受信可能なマルチソケットつきの最高級FMチューナーを採用しており、キャビネットは、塗装技術を最高限に生かした実に美しいポリエステル塗装で家具としても非常に格調がある。

おもな特長

- (1) オートスタート、オートリターン、オートカット、スリープの4機能をワンタッチですべて自動的に操作できる高性能オートプレーヤーを採用した。
 - (2) 木工、塗装技術を最高限に生かしたハイタッチのポリエステルキャビネットで、デザイン、色調とともに家具としても実にデラックスである。
 - (3) 高感度FMチューナー内装オールバンドラジオつきである。FM時代にそなえ日立がFM専用に関与した新形管“17EWS”をFM高周波増幅・周波数変換に使って設計した、すばらしい高感度FMチューナーであり、現在実験放送中のFMステレオ放送用“マルチアダプターソケット”も完備している。なおFMステレオ放送は、ダイヤル面ですべて簡単に操作できる。
 - (4) 話題のダイナミックレンジコントロールつきなので、迫力あるシンフォニックトーン〈エキスパンド効果〉と、バックグラウンドミュージックに、また深夜でも静かなソフトモード調シンフォニックトーン〈コンプレス効果〉をひとつのつまみで自由に楽しめる〈効果がひとつでわかるインジケータつき〉。
 - (5) 新形PMスピーカー〈20×16、6.5cm〉による4スピーカーで、迫力あるシンフォニックトーンが楽しめる。
- 現金正価 52,800円 月賦正価 55,700円 (12回払い)

光るラジオハイフニック“ジュニア”発売

光るラジオと好評を博しているハイフニック〈888〉、〈999〉に続いて、レーザーチューニングつきの第3弾、ハイフ



オニツク〈ジュニア〉が発売になった。

このセットは、特に若い需要層を対象に発売するもので、短波も開ける高級7石2バンドに、レーダーチューニングをプラスしたホーヤブルラジオになっており、小形のスポーティなデザイン、手軽に買える価格を打ち出している。

現金正価 6,150 円、月賦正価 6,500 円 (12回払い) でショルダーベルト、イヤホン、日立乾電池券が付属している。

おもな特長

- (1) 日立独特の“レーダーチューニング”つきで、完全な同調点でレーダーラップが美しく輝き、放送を正確にすばやくしかも楽しく選ぶことができる。
- (2) 短波も開ける高級7石2バンドで、日立ドリフト・トランジスターの使用で、雑音のない安定した受信ができる。
- (3) コーン紙の奥行を深くとり、ダンセンブをよくした新形6cmスピーカの使用により、豊かなシンフォニックトーンが楽しめる。
- (4) レザ模様の高級モールドキャビネットに、豪華なパンチメタル、メカニク的なフロントパネルを配し、持ち歩きに軽快なショルダーベルトつき、セットの色は、シャープな感じの黒、明るいタッチの赤とページュのフートーンカラーの2種がある。
- (5) 電池は、単3号 (UM-3A) と積層乾電池 (4AA) のどちらでも使用でき、裏ボタンを閉けなくて簡単に電池の交換ができる専用の電池ケースがついている。

おもな規格

回路方式	7石2バンド	スーパーヘテロダイナ
受信周波数	短波放送 (SW)	3.8~12 Mc
	標準放送 (MW)	530~1,605 kc
トランジスタ	2 SA 350	周波数混合
	2 SA 12	中間周波増幅 第1段



第43回 日立のトランジスタラジオ
ハイフオニツク“ジュニア”

2 SA 353	中間周波増幅 第2段
2 SB 75	低周波増幅
2 SB 77	検波電流増幅・ランプ点灯用
2 SB 77×2	電力増幅 (B級プッシュプル)

ダイオード	1N34A×3	検波・自動音量調節補償
サーミスタ	B-2B	温度補償
出力	180 mW (無ひずみ), 250 mW (最大)	
電源	.6V 単3号乾電池 UM-3A 4個	または積層乾電池 4AA 1個使用
消費電流	10 mA (無信号時)	
スピーカ	6 cm PM 形	
イヤホン	EL-216 日立マグネットイヤホン (付属)	
アンテナ	フェライトアンテナ内蔵, ロッドアンテナ付属	
大きさ	幅 152×高さ 83×奥行 37 mm	
重さ	450 g (日立乾電池とも)	

……編集後記……

昭和38年7月に開通した日本道路公団名神高速道路の天王山トンネルに設置された換気設備は、わが国では初の試みである半縦流方式を採用し、自動的に8~12段階に換気量を制御するものである。

また名神高速道路天王山および梶原両トンネルの換気集中自動制御装置は、換気設備をトンネル内空気汚染度に応じて自動運転して換気制御を行ない、あわせてトンネル内の信号、照明など諸設備を集中制御するものである。

「名神高速道路天王山トンネル換気設備」、「名神高速道路天王山・梶原トンネル換気装置の集中自動制御」の2論文は、その詳細の報告で、今後の日本における自動車トンネルのモデルケースとして注目すべき論文であろう。

昭和36年、日新製鋼大阪工場に納入された軟鋼用高速センジマミルは、世界最大のセンジマミルとして業界の注目をあび、四重冷間圧延機との性能の比較について大いに関心がもたれていた。

「軟鋼圧延用高速センジマミルの特異性」では、これまでの運転成績、比較実測により両者の性能を比較し、さらに最近開発をあげてきた極薄ブリア製造に対するセンジマミルの適応性について述べている。

“パイプ中の技術的魔物”などと呼ばれている調節弁には幾多の技術的研究の余地が残されている。火力プラントの復水および給水

加熱装置など、補機の制御に使用される弁について、特に内弁の形状選定、ボデーおよびトリム材料選定、音響対策、受人検査などの問題点を「タービン補機制御に使用する空気作動式調節弁の問題点」として報告している。

本号の特集は「原子炉圧力容器ノズルの熱応力解析」、「高張力ボルト摩擦継手の力の伝達」、「平滑試験片の疲労強度に及ぼす表面積の影響について」、「直交溶接継手の疲れ強さ」など、材料の強度に関連した論文9編を掲載し、「材料強度特集」とした。材料強度の問題は、最近各分野からの注目を集めており、ここに掲げた9編の論文は必ずご期待にこたえるものと信ずる。

一家一言欄には、九州大学教授石橋正博士より「金属の強さにおける巨視、微視の問題」と題して金属の強さの研究方法について、巨視的立場と微視的立場からこれをとらえ、二つの研究方法が相補けあって進むところに、強さの学問およびその応用の進歩があることを主張された玉稿をいただくことができた。

ご多用中にもかかわらず、特に本号のために稿を草された博士のご厚意に深く感謝の意を表する次第である。

昭和38年度最終号の編集を終るにあたり、読者諸賢から格別のご指導とご愛顧をいただいたことを、心から厚くお礼申しあげるとともに、新年を迎えてのご健康とご発展をお祈りする次第である。

日立評論 第45巻 第12号

昭和38年12月20日印刷 昭和38年12月25日発行
(毎月1回25日発行)

<禁無断転載>

定価1部150円 (送料30円)

© 1936 by Hitachi Hyoronsha Printed in Japan

乱丁落丁料は発行所にてお取りかえいたします

編集兼発行人
印刷人
印刷所
発行所

伊藤 廉
浅野 浩
株式会社日立印刷所
日立評論社

東京都千代田区丸の内1丁目4番地
電話 東京 (211) 1411 (大代)
振替口座 東京 71824

取次店

株式会社 オーム社書店
東京都千代田区神田錦町3丁目1番地
振替口座 東京20018 電話 東京(291)0912

広告取扱店 株式会社 日盛通信社 東京都中央区銀座西7丁目3番地 電話 東京 (571) 5181 (代)